

感染症発生動向調査委員会報告 11月

《今月のトピックス》

- 感染性胃腸炎が流行しています。
- 風しんの流行が継続しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

全数把握疾患

<細菌性赤痢>

1件のShigella sonneiの報告がありました。国内での感染が推定されていますが、感染経路等不明です。

<A型肝炎>

1件の報告がありました。国内での経口感染が推定されています。

<レジオネラ症>

2件の肺炎型の報告がありました。どちらも感染の原因は現在調査中です。

<アメーバ赤痢>

腸管アメーバ症3件の報告がありました。すべて国内での感染が推定されています。1件は同性間性的接触による感染、もう1件は性的接触による感染(同性間か異性間か不明)が推定されています。残るもう1件は感染経路等不明でした。

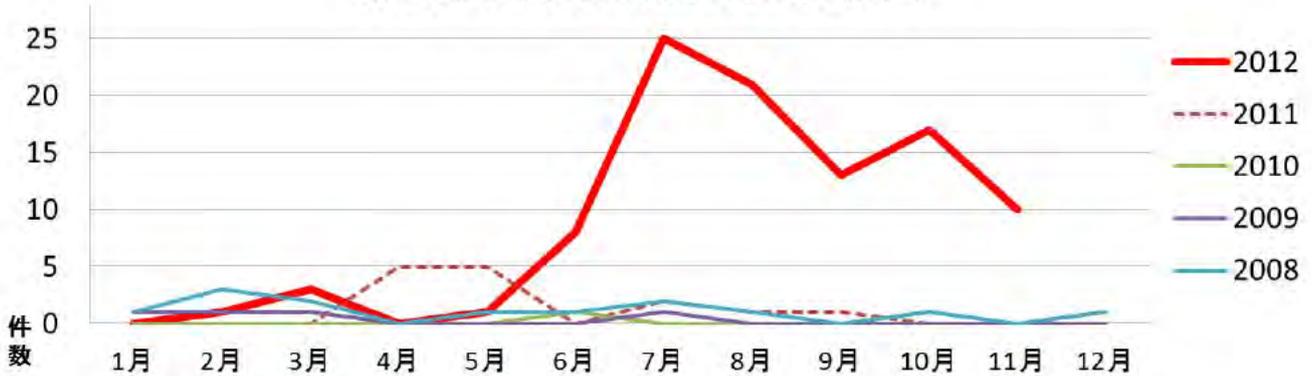
<後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)>

4件(AIDS2件、無症状病原体保有者1件、その他1件)の報告がありました。AIDSの1件はHIV消耗性症候群(スリム病)での発症で、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。もう1件はニューモシスチス肺炎での発症で、国内での感染が推定されていますが感染経路不明です。無症状病原体保有者の1件は、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。その他の1件は抗HIV抗体陽性で、頸部リンパ節腫脹や咳などの症状を認めています。それらの症状がAIDSによるものかどうか等の診断がまだされていない事例です。国内での同性間・異性間性的接触による感染が推定されています。

<風しん>

10件(男性9件、女性1件)の報告がありました。全国的な流行は第30週をピークに減少傾向となっていますが、東京都を中心とした関東地方や、大阪府などの関西地方などでは現在も流行が継続しています。横浜市でも11月に入っても依然報告が続いており、引き続き注意が必要です。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しんHI抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています*。さらに、今回の流行の中心は、予防接種歴が無い、あるいは不明の20~40歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。

市内風しん届出数(2012.11.26現在)



※風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言

<http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf>

◆横浜市感染症臨時情報:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

定点把握疾患

平成24年10月22日から平成24年11月25日まで(平成24年第43週から平成24年第47週まで。ただし、性感染症については平成24年10月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成24年 週一月日対照表

第43週	10月22日～ 28日
第44週	10月29日～ 11月 4日
第45週	11月 5日～ 11日
第46週	11月12日～ 18日
第47週	11月19日～ 25日

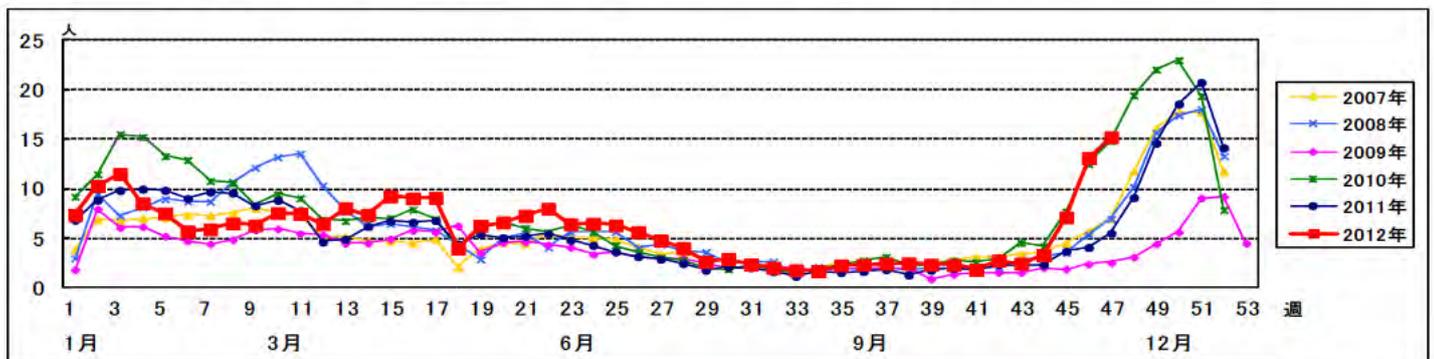
1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。

なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

<感染性胃腸感染症>

今年は41週頃から全国的に増加し、第47週では定点あたり13.02となっています。横浜市でも第47週15.23と急速に増加しており、区別では神奈川区30.60、都筑区28.00、磯子区22.25、栄区22.00、港北区21.63と、5区で警報レベル(定点あたり20.00以上)を上回っています。例年年末にかけてさらに流行するため、引き続き注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。



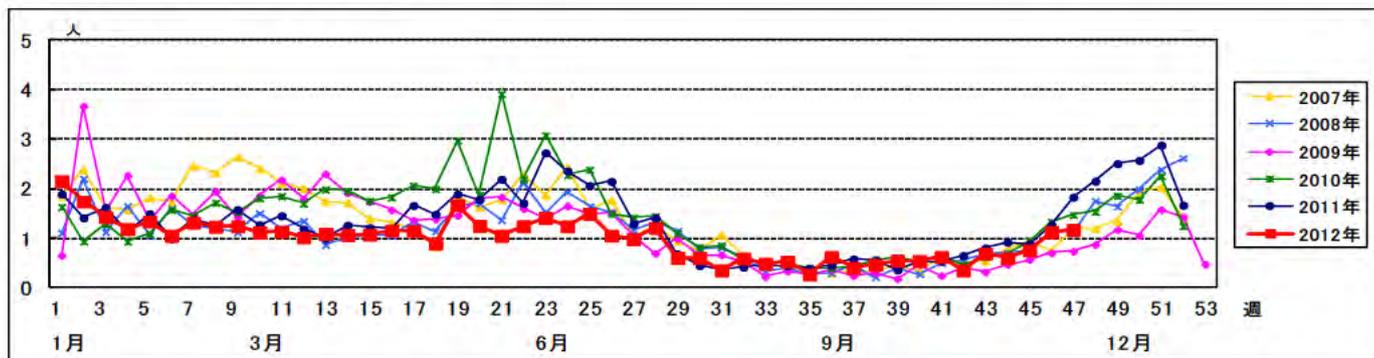
◆横浜市衛生研究所:次亜塩素酸の詳しい使用方法

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>

◆横浜市衛生研究所:横浜市感染症臨時情報:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

<水痘>

第47週は市全体で定点あたり1.18と、大きな流行は見られませんが、45週0.76、46週1.13と報告が増加傾向にあり、区別では神奈川区4.40、都筑区4.33と2区で注意報レベル(定点あたり4.00以上)を上回っており、注意が必要です。

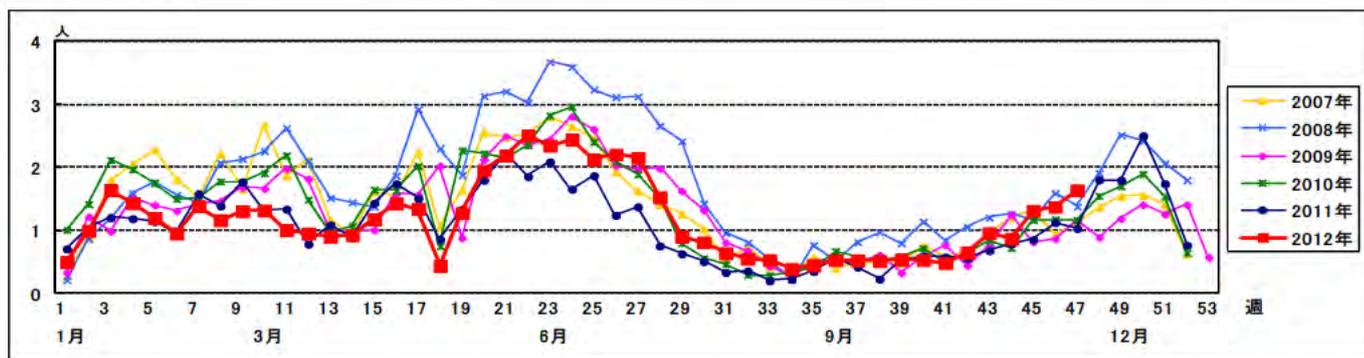


<インフルエンザ>

第47週は市全体で定点あたり0.08と大きな流行は見られませんが、今後の流行期に向け注意が必要です。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

第47週は市全体で定点あたり1.64と警報レベル(定点あたり8.00以上)を大きく下回っていますが、増加傾向です。



<性感染症>

10月は、性器クラミジア感染症は男性が13件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が6件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が11件、女性が1件でした。

<基幹定点週報>

現在マイコプラズマ肺炎は全国的に流行しており、第44週1.31、第45週1.26、第46週1.32、第47週1.06と報告数の多い状況が続いています。横浜市でも第44週5.33、第45週3.00、第46週2.67、第47週0.67と、報告が多い状態が継続しています。細菌性髄膜炎が第46週に1件(80歳代、病原体は未検出)、第47週に1件(40歳代、肺炎球菌)報告されました。また、無菌性髄膜炎が第43週に1件(幼児、病原体は未検出)ありました。クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>

10月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症9件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症2件が報告されました。薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

11月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点49件(鼻咽頭ぬぐい液39件、ふん便10件)、眼科定点2件(眼脂)、基幹定点5件(鼻咽頭ぬぐい液2件、ふん便2件、髄液1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎34人、胃腸炎10人、手足口病2人、インフルエンザ1人、口内炎1人、発熱のみ1人、眼科定点は流行性角結膜炎2人、基幹定点は胃腸炎2人、不明熱1人、尿路感染症1人、インフルエンザ1人でした。

12月10日現在、小児科定点の気道炎患者1人からアデノウイルス3型、1人からアデノウイルス4型、胃腸炎患者1人からアデノウイルス(型未同定)、手足口病患者2人からエンテロウイルス71型、口内炎患者1人から単純ヘルペスウイルス1型、基幹定点のインフルエンザ患者1名からインフルエンザウイルスAH3型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の気道炎患者4人からRSウイルス、4人からアデノウイルス(型未同定)、2人からヒトコロナウイルスOC43型、2人からライノウイルス、2人からパラインフルエンザウイルス(以下Para)1型、1人からPara2型、1人からPara4型、胃腸炎患者6人からノロウイルス、インフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルスAH3型が検出されています。なお、ノロウイルスが検出された6人のうちの1人は、アデノウイルス分離陽性の患者でした。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

11月の感染性胃腸炎関係の受付は、小児科から1件、基幹定点から6件、定点以外の医療機関等からは5件あり、赤痢菌、腸管出血性大腸菌(O157:H-,VT1&2)、サルモネラ(*S. Typhimurium*)、*Camphylobacter jejuni* が検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から7件で、A群溶血性レンサ球菌、インフルエンザ菌、肺炎球菌が検出されました。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(11月)

感染性胃腸炎

菌種名	検査年月 定点の区別 件数	11月			2012年1月～11月		
		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
		1	6	5	2	147	99
赤痢菌				1	3	3	
腸管病原性大腸菌					2		
腸管出血性大腸菌				1	4	48	
腸管毒素原性大腸菌					3		
チフス菌					1	1	
パラチフスA菌					2		
サルモネラ				1	20	5	
カンピロバクター				1	1	11	
コレラ菌						2	
NAGビブリオ						1	
不検出		1	6	1	1	112	28

その他の感染症

菌種名	検査年月 定点の区別 件数	11月			2012年1月～11月		
		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
		7	2	2	83	22	96
A群溶血性レンサ球菌	T1				10		
	T2				2		
	T6	1			10		
	T4				4		
	T12	1			11		
	T25				1		
	T28				4		
	T B3264	2			8		
B群溶血性レンサ球菌						2	22
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						7	26
バンコマイシン耐性腸球菌						1	3
<i>Legionella pneumophila</i>							2
インフルエンザ菌		1			7		2
肺炎球菌		1	1		4	2	
黄色ブドウ球菌					1		
破傷風菌						1	
結核菌							5
<i>Mycobacterium avium</i>							1
緑膿菌							1
不検出		1	1	2	21	9	34

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】